

1 多様なアプローチ（きっかけづくり）による里地里山の再評価と協働による取組の進展

③竹林の急速な拡大が取組のきっかけとなった例

熊本：竹ドームづくりや竹林の再整備を通じた地域の巻き込み

氷川町の中山間部では、柑橘等果樹園の農業が営まれてきたが、高齢化や価格低迷などにより耕作放棄が進んでいる。かつて整備されていた竹林の管理も放棄され、山や果樹園、住居周辺に拡大していることが地域の問題となっていた。

立神地区では竹林の継続的な管理を優先的な課題とし、モデル事業を通じて学生らボランティアとの共同の伐採管理作業を行った。その結果、竹林の管理作業が都市との交流や地域の活性化につながるなどの認識が広がっている。

また、里地公園では、環境プログラムの一環として竹ドーム（スター★ドーム）による竹の有効活用の普及啓発を行った。竹ドーム（スター★ドーム）は、野研（九州フィールドワーク研究会）が考案した、誰でもできる、新しい竹の活用法であり、氷川町でも、イベント等での活用が広がるなど、管理された竹林の有効性への認識が拡大している。



荒廃した立神地区の竹林



管理作業（ボランティアと地元）



竹ドームづくりの講習会



氷川町雪祭りでの展示